

ウクライナにおけるオバマの“破局的敗北”：

ワシントンの戦術の挫折

By Mike Whitney

August 30, 2014, Information Clearing House

「我々は現在、画期的な歴史的事件を目撃している。ウクライナ正規軍と討伐大隊が、ドネツク南部で破局的敗北を喫している。… [ウクライナ] 臨時政府がこの完全敗北をどうやって避けるつもりか、まだはっきりとはわからない。…組織的な攻撃作戦で最も戦闘能力のある大隊を失うことによって、臨時政府は膨大な損失を被り、同時に壊滅的な、純粋に軍事的な敗北を喫することになった。南部戦線は崩壊した。」—— *The Southern Front Catastrophe*—August 27, 2014, Colonel Cassad, Military Briefing, Novorossiia, Ukraine

「ノヴォロシヤ（新ロシア）からの報告は全く信じられないほどだ。…いくつかの情報によると、ノヴォロシヤ軍は北から Mariupol を通り越して Zaporozhie 地区に入った！」—— *News from the Front*, Vineyard of the Saker

“カウンターパンチ” ——バラク・オバマはウクライナを、政治的、経済的、社会的崩壊の縁に追い込んだ。彼は今、自分が与えた損害をロシアのせいにしてしようとしている。ばかばかしい話だ。ウクライナが無政府状態に陥ったことに、モスクワは全く責任がない。これはすべてワシントンのやったことである——イラク、アフガニスタン、リビア、そして現在シリアが、すべてワシントンのやったことであるように。誰かを責めたければ、オバマを責めるべきである。

ウクライナの苦悩が始まったのは、米務省がこの 2 月に選挙で選ばれた大統領を引きずり下ろし、ワシントンの指令に従うように合意した、都合のいい従僕を代わりに据えたときだった。この「臨時」政府は、直ちに、東部地区のロシア語を話すウクライナ人に全面戦争を仕掛けた。これが市民たちを分裂させ、国を破滅に追いやった。東部を“平定せよ”という計画はワシントンの考案したものであって、キエフでも、いわんやロシアでもない。

モスクワは繰り返し、暴力の終結と交渉の再開を求めたが、どちらの要求も、キエフにおけるオバマの傀儡によって一蹴され、更なる敵対行動へと拡大した。ワシントンは平和を求めてはいない。ワシントンが求めているのは、それがイラク、アフガニスタン、リビア、それ

にシリアに押し付けたのと同じ解決であって、これは倫理的な、派閥間の敵意が沸騰点状態に保たれる、混乱し失敗した国家を作り出すことである。その目的は、侵略的な基地が抵抗なしに建設できるように、天然資源が思いのままに取り出せるように、そのようにして、以前は独立していた国家が、“永遠の植民地の依存状態”（チョムスキー）に落ち込むようにすることである。どこであろうとワシントンが赴くところでの、これが基本的なゲーム・プランである。同じルールがウクライナにも当てはまる。人民が取ることのできる唯一の選択は、武装して撃退することだ。これが今までなされてきたことだった。

ドネツクとルガンスクは民兵団を作って敵に立ち向かった。彼らは戦場でオバマの代理軍と交戦し、これを完全に粉砕した。これこそ、オバマがプロパガンダを展開して“ロシアの侵略”というウソを作り出した理由である。この統治方式は方向転換しなければならない。なぜならノヴォロシア（新ロシア）——別名、親ロシア分離主義者——はオバマの軍勢の鼻をへし折りつつあるからだ。これがワシントンとキエフが完全なパニック・モードにある理由である。なぜなら、こんなことが起こるとは誰も想定していなかったからである。オバマは、この軍隊が反乱を押さえつけ、抵抗を押しつぶして、NATO 基地とミサイル防衛システムを、ロシアの西の横腹に建設する目標に、一歩近づけるものと計算していた。

ところがどうなったか？ それはいつでもそんなわけにはいかない。おそらく今後も決して。ノヴォロシアの戦士たちはあまりにも強かった。あまりにも賢く、かつ強い動機があったから、オバマの無能な兵隊どもにひねられるようなことはなかった。

（このビデオを見れば、どうして反乱軍が勝っているかがわかるだろう——
<http://vineyardsaker.blogspot.com/2014/08/watershed-press-conference-by-top.html>
Vineyard of the Saker)

プーチンは戦車も砲車もウクライナに送ってはいない。そんな必要がないからだ。民兵団には戦い方をよく知る百戦錬磨の老兵がいる。過去 2 週間の間にその軍隊がこっぴどくやられてしまったポロシェンコに聞いてみるがよい。木曜日のイタル・タス通信のこの報告に注目されたい——

「8月16-23日の1週間に、ドネツクとルガンスク人民共和国の自衛軍は、14台のT-64戦車、25台の歩兵戦闘車両、18台の装甲兵員輸送車、1台の装甲偵察パトロール車、1台のUraganロケット発射装置、2台のGvozdika自走砲、4台のD-30ホヴィッツァー砲、4台の臼砲、1台のZU-23-2防空システムと33台の車両を鹵獲した。」(*East Ukraine militias seize large amount of Ukraine armor, Itar Tass*)

おわかりだろうか？ ウクライナ軍は完全に潰されつつあり、オバマの栄光ある戦術が壁

にぶつかったということである。

基本的事実：ロシアはウクライナを侵略していない。メディアの宣伝屋が、ノヴォロシア軍（別名、親ロシア分離派軍）が一蹴り食らわせてサヨナラしているという事実を、隠そうとしているのである。それが起こっていることの真相である。これが、オバマと彼の悪党ネオコン一味が、慌てふためいている理由である。彼らは次にどうしてよいかわからず、あらゆる問題で、彼らの債務不履行の立場に戻ったからである。何か方策が見つかるまで、彼らは狂ったようにウソをつき続けるしかないだろう。

当然ながら彼らは、自分が作り出した混乱を、プーチンになすりつけようとしている。それ以外にどうすることができようか？ 彼らは、上手の軍隊によって切り取られた自分の首を、返してもらっている。家に帰って家族にこれをどう説明する？ ニューヨーク・タイムズのナンバーワン・フィクション・ライター、マイケル・“アルミ管”・ゴードンの書き物の一部をご覧いただきたい――

「東ウクライナでの親ロシア反乱を何としても維持しようと、ロシアは、西側とウクライナが“密かな侵略”と言っているものを強化し、水曜日、国境を越えて装甲部隊を送り込んで、ウクライナ領の新しい部分へ戦争を拡大した。

ウクライナ軍によれば、5台の装甲兵員輸送車を含む最新の侵攻は、国境の南東部を超えるロシアからの部隊と兵器の、少なくとも今週3度目の動きであり、それより北のドネツクとルガンスクの砦にいる反乱軍を助けて、ウクライナ軍の勢いを鈍らせようとするものだった。ロシア軍が方向を変えたかもしれない証拠は、ウクライナの兵士たちが、国境を越えてきた彼らから、パニックを起こして退却している様子 [写真?] でわかる。(*Ukrainian Reports Russian Invasion on a New Front*, New York Times)

“密かな侵略”？ 要するに、ゴードンはこれを WMD (大量破壊兵器) の言い換えとして思いついたのだろう。何を言っているのか？

これはよくできたフィクションですらない。グリム童話にもっと似たものだ。そしてその写真はどこにある？ 証拠があると言うなら、ゴードンよ、見せてもらいたい。ただし、この前のときの、ロシアの部隊がウクライナで行動していると言われたあのニセ写真より、ましなものにしていただきたい。あれはもう一つの騙しだったではないか？ (*Another NYT Michael Gordon Special?*, Robert Perry, Consortium News を見よ)

これはあのマレーシア航空機撃墜のときに似ている。撃墜のあった翌日、[ジョン] ケリー

が 5 つのテレビ・トークショーに出て、地対空ミサイルとロシアの輸送団らしいものについて、ひとかけらの証拠もなしに、あらんかぎりの怪しげな非難をしていたことを思い出していただきたい。そしてまさにその翌日、ロシアの軍事専門家が、ウクライナの戦闘機が、MH17 が撃墜される直前に、そのすぐ傍に接近していたことを示す、レーダーと衛星写真による固い証拠を冷静に出して見せた。(BBC もまた、SU25 機がこの旅客機に近づいているのを目撃した人たちをインタビューした。記者注：そのビデオは後に“ユーザーによって”消されたが、文字化された会話の内容は残っている——8/3「なぜ BBC はこの報道を削除したのか？」)

それで、あなたはどちらを信ずるか、ケリーか事実か？ そして今度の場合は、あなたは誰を信ずるか？ ゴードンか、欧州安全保障協力機構の Andrey Kelin か？ ケリンは昨日、こう言った——

「我々はこれまで、いかなるロシアの関与も見出されていないと言ってきた。どんな兵士も装備も存在していない。」

「装甲兵員輸送車の車列に関する非難が、先週ずっと、またその前の週にも聞かれた。そのすべては、そのとき偽物と証明された。そして今度も再び偽物と証明されている。」
(RT)

繰り返そう——「いかなるロシアの関与もない」。すべての非難は「偽物と証明された」。ついでに、偽物、プロパガンダ、ウソは、ゴードンの得意分野のようだ。

この紛争をずっと追ってきた人なら誰でも、ワシントンに支援されたキエフ臨時政府が、東部地区の自分自身の人民に戦争を仕掛けていること、そして彼らは、病院、学校、図書館、アパート、公共建造物、住宅地区、等々を、ただプーチンを戦争に引っ張り出すために、ずっと爆撃し続けたことを知っている。それは EU とモスクワの経済的一体性を破壊し、その地域でのアメリカの利得を伸ばすことが狙いである。これはそのすべてが地政学的計算である。多くの人々が殺されているのは、ワシントンの大金を動かす連中が、あと 1 世紀かそこら地球的権力を握ってられるようにするためである。

ただ、そのような悪夢はいま中止することができる。その主たる理由は、東ウクライナの寄せ集めの兵隊あがりタイプの人々のグループが、効果的で強力な民兵団を作り上げ、これが事態をあっという間に急転回させたからである。もしあなたが毎日の出来事を記録するブログで、その展開を追いかけるなら、私が言っていることが本当であるとわかるだろう。彼らがウクライナ軍と呼ぶ、組織も士気も失った烏合の衆は、ノヴォロシヤ民兵軍と喧嘩をす

るたびに敗走する。Moon of Alabama というブロガーがそれを、木曜日、次のように要約した——

「彼らの士気は低く、装備は古く、弾薬は不足している。そして彼らの運動の目的全体が、疑わしいものである。今ここでわずかの弱い反撃をただけでも、彼らは逃げるだろう。」

ここにもう一つ加えてもよかったことは、彼らを導いているのが、高位に坐った最大のうすのろペトロ・ポロシェンコだということだ。この男は自分のことを、戦車隊を率いてアルデンヌ高地を越え、パリにまで侵攻したナチスの将軍ハインツ・グデーリアンと考えている道化者である。何という冗談か！

タイムズ紙は、ウクライナ軍はひどく士気が低下しているときえ認めている——

「ウクライナ兵のある者たちは戦う気がないように見えた。西ウクライナ Vinnytsia の第 9 大隊のこのユニットの指揮官は、兵たちに回れ右を怒鳴ったが効果がなかった。“よーし”と指揮官は言った、“戦いたくない者は離れて坐れ”。11 人がそうした。そして他の者たちは市へ戻った。

ある兵たちは完全に退却しようとしていた。彼らを詰め込んだ市バスは道路を西へ向かって傾きながら走った。弾丸に撃ち抜かれた窓から、紫のカーテンが出入りしていた。」(New York Times)

指揮官がその部下に、戦いたいかどうかを訊ねるという話を聞いたことはなかろう。滑稽である。これが敗軍であることは間違いない。そして彼らの不平が平均的にどんな感じのするものかもよくわかる。普通に働いている男が、同じ国の人民を殺す気にはなるまい。それはやって気持ちよくなることではない。早く戦争が終わって家に帰りたいと彼は思っている。これが、彼らが大声で脅しただけで逃げる理由である。これとは対照的に、民兵団を構成している農夫や店主や坑夫などは、高い動機付けをもっているが、これは彼らにとって地政学とは関係がない。これらの人々のほとんどは一生涯これらの都市で暮らしてきた。ところが今、隣人が通りで撃ち殺されるのを見たり、爆撃された建物から友人を引っ張り出したりしている。これらの人々にとって戦争は現実で、自分の身のことである。彼らは自分の町や家族や生計の道を護っている。これは当然、固い意志と決意を持たせるだろう。NY タイムズからもう一つ読んでいただきたい——

「アメリカはロシアの砲兵団が、ウクライナに侵入するところを示す写真をもっている、

と米高官筋は言っている。NYタイムズ記者が見せられた先週木曜日付の写真は、ロシア軍部隊が自走砲車列でウクライナに侵入しているところを示している。土曜日付のもう一枚の写真は、自走砲がウクライナで砲撃の姿勢を取っている。

ウクライナの兵器庫にはないはずの装置を含む、高度な対空兵器もまた、ウクライナ軍の空軍戦力を弱めるために用いられてきた、と米政府筋は言っている。それに加え、ロシア軍は日常的に無人機をウクライナに飛ばし、分離主義者たちと情報を交わしている、彼らは言った。」(*Ukraine Reports Russian Invasion on a New Front*, New York Times)

写真？ どんな写真だ？ ゴードンは写真などもっていない。ああそうか、彼は、写真を見たと言う NYタイムズ記者のことを聞いたことがあるということだ。

これは滑稽な話だ。しかし考えてみれば、これはイラク侵略の口実を作るのを手伝ったジャーナリストの言いそうなことではないか？

ロシアの外相セルゲイ・ラヴロフは、ロシアの侵略という主張に対しこう言っている――

「我々がとんでもない推量話を聞かされるのは、これが初めてではない。しかし、これまで事実が提出されたことは一度もない。…

ロシア部隊の動きを暴露する衛星写真の噂が流れたことがあった。それはビデオ・ゲームから取った写真であることが判明した。この最新の非難もほとんど同じ品質のものだとわかった。…

我々は、流血をなくする努力をどこまでも続け、ウクライナの将来に関する交渉を主張し続けることで、それに応えよう。これはウクライナの全地区と全政治勢力が参加するもので、この4月にジュネーブで合意されたものだが、今は我々の西側のパートナーが故意に避けているものだ。」(RT)

言われている通りで、ロシアの侵略行為などないのは、大量破壊兵器、携帯兵器、アルミニウム管、サリン・ガス、等々がないのと同じである。それらはすべて隷従する放送局のねつ造したもので、彼らは、東ウクライナの大火を何が何でもエスカレートさせようとする、戦争屋政治体制のアジェンダに従っている。

(Mike Whitney はワシントン州に住み、 *Hopeless: Barack Obama and the Politics of*

Illusion (AK Press) に寄稿している。*Hopeless* は Kindle 版でも入手できる。メールアドレスは fergiewhitney@msm.com)

参考サイト：

<http://www.bbc.com/news/world-europe-28990428>